こびとのおうちえんLetter 11月号

平成30(2018)年11月1日発行　第95号

公園の上の山で、いちだいがイノシシになって逃げまわって、それをかんせいこうたともやいつきつばめよっこで追いかける。いちだいが本当にイノシシみたいに細い道や斜面をかけあがって身軽に走る。みんなは「あっちだ！」「まてー！」っていいながら追いかける。時々おいついた、と思ったらまたいちが逃げて。はさみうちとかもしようとするけど、なかなかつかまらず、めちゃ盛り上がった。かけあがる姿はたくましい。ともやつばめいつきが斜面をいっしょうけんめいのぼってる。ももこが来た！斜面ののぼりおりがうまくいかず、土もくつに入るしで、くやしがってる。これから、ね！

11月のスタッフプラン

・山であそぼう
・いっぱい走ろう！

21日(水)おべんとうのひ

琴石山へ登ろう
おべんとうの準備をおねがいします。

11月のお母さんグループ

※参加したい方は、事前にご連絡ください。当日でもOKです。

28日(水)13:00~15:00 大野地区老人作業所
内容：フィーリンググループ　～自分をゆっくり感じる時間。メンバーの気もちを聴き感じる時間。ご一緒しましょう。

10月はこんなことしました

- 山たんけん
- えだまめをゆがいてたべる
- おにぎり作り
- フェルトのお人形作り
- 稲刈り
- 落ち穂ひろい
- 魚釣り
- むかご・しいの実・冬いちご とり
- 体重測定
- 神護寺へ行く
- 山の広場であそぶ
- 田布施の田んぼであそぶ（ワラのおうち、ブランコ、すもう、チャンバラ、ハゼカケの竹の上にのぼる、歩く etc…）

おたんじょうび おめでとう!!

14日 ひらしまいちだいくん（6さい）

＿＿＿＿＿＿＿＿の様子をおしらせします。

よっこのちょこっとおうちえん日誌 ―日々のあれこれ―

ともや「カラスがわらったこえがした。」
「あ、あ、あ、あ」って。(10/29)

マスクの子が多くて、「せきの子がいっぱいいるねえ。」
「よっこはよくくしゃみがでる。」と言うと、
ろくだい「ろくちゃんは、あくびがでる」(10/22)

るい 石垣の穴の中をのぞいて、
「あなのなかに、さかながいる!!」
見たら、葉っぱみたいなのが入ってて、本当に魚にみえた。(10/2)

おひるごろ、あつおさんからTel有。「田布施の田んぼでワラであそべるよ。」でも、私はその時、えだまめをつばめと、とってて、午後からゆがく予定…。どうしよっかな。で、みんなにきいてみた。つばめは、「たんぼには行かんで、えだまめやりたい!!」強い意志を尊重したい。「たき火したい！」のりょうすけるいももこと たんぼに行きたくないともやあらたが残る。他メンバーは、ももちゃん、ひかるとたんぼへ。行きたい子、行きたくない子、その両方のきもちに沿えたから、たき火メンバーは、ずっと笑ってたし、行ったメンバーも、キラリンとして帰ってきた。(10/22)

あらたのことばのかけ方や人への接し方があったか。
りょうすけるいてんこと カモの池までおさんぽ行ってかえる途中、山にいった子たちと会うかねえと、「オーイ」と呼んだら、ひかるいつきひさとあらたから、「オーイ」と返事が返ってきた。あらたが、「もうちょっとやから、まっててねー」(10/29)
山たんけんのかえり、みとと並んで歩いてるあらた。みとが「いえで○○したんよ。」(詳しくはきこえなかった)とうれしそうに言うとあらたが「よかったね。」
みかんをとってかえってたら、つばめのみかんが坂道をころげた。追いつけないつばめ。みかんが川におちた。あらたが追いついて何も言わずに川にジャンプしておりて、「はい。」とつばめに渡す。(10/30)

ろっくんのコーナー

お弁当の日にみんなで神護寺に行った。そこへのルートは最近ひかるが何人かと開拓したと聞いていたが、なかなかのアップダウンと遠さに驚いた。この日は1日かけてゆっくり歩いたが、開拓した子たちは、朝の時間だけで往復していたなんて！と、さらに驚いた。このごろのみんなは本当によく歩く。4月ごろの年少さんを思い出してみると、この半分にも満たない距離でぐずったり、「かえろう」と言い出すこともあった。この半年間でみんな体力がついた。そして、気力もついたと感じる。
僕はしっかりと体を動かすと気持ちが楽になるし、物事がクリアになると思っているので、おうちえんで過ごす時はなるべく体を動かすことをする。おさんぽの魅力は、行くメンバーやタイミングによって毎回違う発見があることだ。誘っても不発に終わることもあるが、今後もおさんぽを楽しみたい。秋も深まってますます体を動かすには ピッタリ。弥山登山も楽しみ。
藤田敬太郎

～キッチンスタッフより～

先日、洋介・七海と3人で電車に乗った時のこと、2人掛けの席に座ろうとしたところ、前の席に座っていたお兄さんがサッと背もたれの向きを変えてくれて私達の席を4人掛けにしてくれた。さりげない親切が嬉しく、心があたたかくなった。
あたたかいと言えば、七海が家でやりたいと言って実現した「おともだちカフェ」によっこが来てくれた時も、よっこの優しさや七海の嬉しさが伝わってくるような何ともあたたかく、とても幸せな時間だった。洋介にしても七海にしても、やりたいことに向かう時の集中力にはいつも感心する。
おうちえんでは、子どもたちのやりたいことをいつも大切にしてくれる。活き活きと楽しそうに様々な遊びをしている姿に顔がほころぶ。もちろん、時には思い通りにならないこともあるし、泣いたり、嫌な気持ちになったりすることもあるだろうけれど、それも全部含めて、ステキな日々をおうちえんで過ごさせてもらったんだなとしみじみ有難く思う。まだまだ私の課題である、ありのままを受け入れる、見守るということもいつも学ばせてもらっている。
さてさて、先の電車の私達の行き先は湯田温泉。福岡の私の母、弟妹と1泊することになり、念願の女将劇場を観覧する機会に恵まれた。思いもかけず、オープニングで洋介が女将さんに手を引かれて前に出ることになり、楽しい時間を過ごせた。芸が大好きで、約90種類もの芸をこなし、70才を過ぎた今も尚、新しい芸に挑戦中との女将さん。いくつになってもチャレンジする気持ちを持っていたいなと思えた夜でした。
慌ただしい日常の中、心に余裕のある日ばかりではなく、失敗や反省も多々ありますが、少しでも多くの「いい時間」を過ごせる私自身でありたいなと思っています。
浴洋子

山たんけんに全員で。和田さんのおうちの横から山へ入っていく。たんけんに慣れてるメンバーは、どんどん前をいく。途中、倒木の一本橋のところであそんだりする。最初は、山でのんびりと思ってたひかる。でも、みんなは前へ前へと…の流れ。あらたがノリノリ。私の前を行くるいは、時々うしろをみながら「こっちよー」と道案内。私は山歩くのがおもしろくてずーっと鼻歌うたってた。いちだいが時々一緒にうたう。道のわきの段の上に、木の根っこを使って大きい子たちが登ると、やってみたいと、てんこみとりょうすけつばめろくだいもしっかりのぼる。道を行くよりは、はずれてるのがおもしろいみたい。りょうすけが、「ねえ、よっこー、さんぽするより山を歩く方が楽しいと思わん？」よ「りょうすけは、山の方が楽しいって思ったの？」りょ「うん!! さんぽするより山がたのしい!!」うれしいなあ。
道をどんどん進んでいく。この道は、毎年通る。初期メンバーの頃から。迷いそうなところには、あつおさんがつけた赤いテープの目印がある。小川を横切る。さいごの細い竹のやぶは、もう、ほとんどイノシシの通る道で、ほんとのイノシシみたいに長いトンネルをはっていく。そこから、広い道に出て、ガリヨシの岩のへんにぬける。山がきもちいい。みんながすごくあそんでるのがうれしい。
最初ちさは、うすぐらくて急な山道を見て、「こわい」と言ったみたい。次第に歩くのにも慣れていく。最後には、おもしろくなったみたい。ろっくんが「あと10回山来ようかな。」と言うと、ちさが「ちーちゃんは11回!!」(10/30)